

平成30年9月25日

報道機関 各位

本邦初、膵臓・胆道センターを設立

富山大学附属病院は2018年9月に膵臓・胆道センターを設立しました。北陸は
おろか、全国的に見てもこの分野の内科・外科の専門家がそろっている施設はほとん
ど無く、膵臓・胆道センターは国内で初めての設立となります。

本センターでは、消化器内科・消化器外科・放射線診断科・放射線治療科・臨床
腫瘍部・病理部などの各領域における専門家が共同し、膵臓・胆道疾患の専門的診
断・専門的治療にあたっています。

については、同センターの設置にあたり、下記のとおり記者会見を行いますので、
取材・報道方よろしくお願いたします。

記

1. 日時 平成30年10月3日(水) 13:00～ (40分程度)
記者会見、報道機関を対象とした質疑応答
2. 場所 富山大学附属病院総合臨床教育センター2階多目的研修室
(富山市杉谷2630) 別添案内図参照
3. 出席者
齋藤 滋 (富山大学附属病院長)
藤井 努 (富山大学大学院 消化器・腫瘍・総合外科(第二外科) 教授)
安田 一郎 (富山大学大学院 内科学第三講座 教授)
ほか関係者

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学病院事務部病院総務課 福島
TEL. 076-434-7101

膵臓・胆道センター概要

膵がんをはじめとした膵臓・胆道疾患は、診断・治療が大変難しい疾患です。一般病院における通常の検査では発見できないことも多く、それが膵がんや胆道がんが予後不良である原因の一つであるとされています。また膵臓・胆道の外科手術は合併症率も非常に高く、消化器外科手術の中でも飛びぬけて難しいものであるとされており、この手術に熟練しているといえる外科医は非常に少ない状況です。

本センターでは、膵がんなどの悪性腫瘍においては、診断・手術だけでなく、放射線治療、化学療法、血管内治療、病理診断、緩和医療までしっかりと対応します。さらに大学病院ならではの、新規治療や新規薬剤の治験なども受けて頂ける可能性があります。

また、胆嚢結石症は代表的な良性疾患ですが、ひとたび炎症が起きたり総胆管に落石したりすると、非常に重篤な状況になることがあります。膵炎は、治療方法が適切で無いと重篤で致命的な状態に陥ります。悪性腫瘍だけでなく、このような胆石、総胆管結石や膵炎などの良性疾患に対しても、低侵襲かつ安全で質の高い診断・治療を行います。

特徴・特色

1. 内科部門

膵臓・胆道疾患の診断には、「超音波内視鏡」が重要で、通常のCTなどでは見つけることができない早期膵がんの発見や膵嚢胞・胆嚢ポリープの鑑別診断に威力を発揮します。また、そこから針生検を行い、正確な診断を得ることができます。

富山大学には、「経口胆道鏡（胆管内視鏡）」や「バルーン内視鏡」などの最新鋭の内視鏡機器が整備されています。これらを駆使して、診断の難しい胆管の病気を診断したり、一般的には開腹手術でしか取り出すことのできない総胆管結石を、手術をせずに内視鏡で取り出したりすることができます。これらの最新機器を用いた診断・治療は非常に専門的なもので、かなり高度な技術を必要としますが、これらの検査に熟練している証である日本胆道学会指導医（内視鏡診断部門）資格は、富山県内では当院の安田一朗教授だけが取得しており、世界各国でこうした内視鏡技術の指導を行っています。

2. 外科部門

膵臓・胆道悪性腫瘍の手術は大変難しく、とくに膵頭十二指腸切除術は、国内データベースの集計でも約3%の手術死亡率、約40%の術後合併症発生率と報告されており、腹部手術の中で最も高難度の一つとされています。

肝胆膵外科高度技能専門医である藤井努教授は、新しい膵空腸吻合法である Blumgart 変法を開発し、本邦でも群を抜いて安全かつ確実な手術を行っています。さらに、難治がん

ある膵がんの集学的治療の開発にも積極的に取り組み、他院で手術不可能とされた膵がんを、動脈・門脈合併切除・再建などの手技を駆使して切除してきた実績があります。また、拡大手術ばかりではなく、良性～境界悪性疾患に対しては膵を最大限に温存する術式や、腹腔鏡下手術などの低侵襲手術を行っています。

3. 放射線診断部門

当院における CT や MRI 検査、PET-CT 検査などは非常に精度が高く、さらに野口京教授をはじめとした放射線診断の専門家により、他院で診断できなかった疾患・病態を発見することもあります。診断が非常に難しい膵臓・胆道疾患においては、必ず当院で改めて画像診断を行います。確実な診断を行うことにより、患者さんに最適な治療を選択することが出来ます。

また、周術期における血管造影・血管内治療も、当院の専門家により迅速かつ高度な対応を行っています。

4. 放射線治療部門

膵がんは、進行度によっては放射線治療が有効であることがあります。近年では、局所進行膵がんに対して放射線治療を行い、切除不可能な膵がんを切除可能にするという治療戦略が行われています。

齋藤淳一教授が率いる放射線治療部門は、高精度放射線治療である定位放射線治療や強度変調放射線治療を数多く手がけており、悪性腫瘍に対する重要な治療の一端を担っています。

5. 化学療法部門

膵臓・胆道における悪性腫瘍の治療においては、化学療法は非常に重要です。近年の新しい化学療法を駆使することにより、以前とは比較にならないほど良好な効果を得ることができています。

林龍二教授を中心としたスタッフによる適切な化学療法により、膵がん・胆道がんの治療成績は大きく改善してきています。また、がんによる痛みなどの症状に対しても最善の治療を行っており、苦痛をやわらげ、病気に向き合えるような質の高い医療を提供しています。

6. 病理部門

検査により患者さんの体内から採取された組織を、井村穰二教授が顕微鏡で最終診断し、最善の治療を検討する判断材料とします。また手術で切除した組織も顕微鏡診断を行い、進行度や治療効果などを判定し、患者さんのその後の治療を決定するのに大変重要な役割を担っています。

富山大学附属病院「本邦初、膵臓・胆道センターを設立」記者会見

会場案内

日時：平成30年10月3日（水）13:00～

場所：富山大学附属病院（富山市杉谷 2630）総合臨床教育センター2階多目的研修室

【富山大学附属病院のご案内】



【会場のご案内】

